

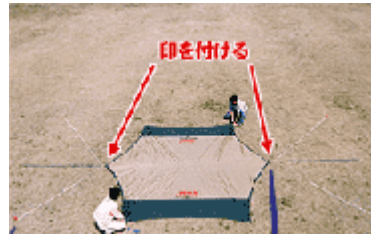
タープテントの取り扱い方



タープの設営方法

①タープの位置を決める

テントサイトに着いたら、まず頭の中でタープとテントの配置をイメージしてください。そのイメージに沿って地面にタープを広げ、ポールとロープ、ペグを実際の位置に配置します。配置がすんだら両方のグロメットの位置を地面に印しておきます。



ポイント1 [ペグダウンの角度は60~90度]

伸ばしたロープの先端にペグを打ち込みます。地面の質にもよりますが、ペグを打ち込む角度は地面に対して60~90度が最も効果的です。打ち込んだらロープをペグにひっかけておきます。



ポイント2 [ロープの角度は80度]

ロープはポールの1.5倍の長さにし、ポールを挟んで約80度の角度で伸ばします。最も強度が確保できるのは90度ですが、立ち上げてロープをきつく張るとグロメットが外側にびっ張られ、角度が広がってしまいます。あらかじめその分の角度を絞っておくわけです。

②張り網で、ポールを立てます

片方のグロメットにポールを刺し、ロープをひっかけてポールを立て上げます。地面に印を付けておいた位置にポールの下部をセットし、垂直に立たせた後、ロープの張り具合を調整します



③タープを水平にします

もう一方のポールも(2)と同様な手順で立ち上げます。立ち上がった真横から眺め、2本のポールが垂直か、タープが地面に対して水平かを確認し、曲がっていればこの時点で調整。調整が済んだら、ポールの下部を20cmほど内側へずらします。



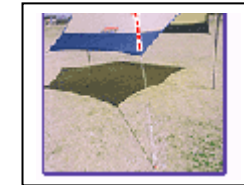
④張り網で両サイドを広げます

4カ所のループにロープをセットし(ふた結び)ロープを張っていきます。ロープが長ければタープの有効面積は大きく、短ければ小さくなります。全体の調整が済めば完成です



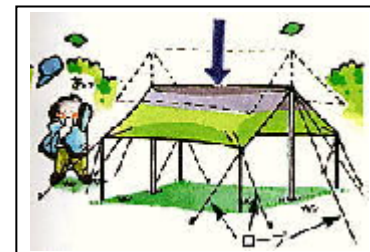
ポイント3 [天井ラインの中間に合わせて]

最初のロープは、タープの天井ラインのちょうど中間点に向かって張ります。次にその対角にあるロープを同様に張ります。この2本のロープは対角線上の1本のラインとなり、高い強度と美しいシルエットが得られます。さらに残り2カ所も同じ手順で張ります



雨の日は、雨はしを下ろす

両端のポール位置をグロメット一つ分内側に移動させ、タープの両端を下ろすことで、雨のふきこみや、風の進入を防ぐことができる。



風の強い日は、低めに張る

ポールのつながりをひとつ少なくして、全体を低めに張ろう。あまり風が強い時は、撤収。



日照しの強い日は、地面に固定



センターポールの位置をずらして、タープの片側を地面に固定しよう。風よけにも応用できるよ。

タープ・ワーク

レクタングラー

<p>サイドからの強い日差しや雪には両端を下げて対応</p>		<p>雨 風 雪</p> <p>長方形の長辺サイドにメインポールを立て、手前のグロメットに短いポールを2本セット。短辺サイドが折れ曲がるように張り綱を張る。狭いキャンプサイトで設営する場合や、サイドから射し込む日差しや雨、雪、風などをカットする場合に非常に有効な張り方だ。</p>
<p>雪、雨、風、大荒れの天候にも対応する全天候型</p>		<p>雨 風 雪</p> <p>タープの一方のサイドを下げて壁を作り、もう一方は手前のグロメットを短いポールで支え折れ曲がるように張る。これで強風を伴う大雨でも完全にブロックできる。さらにタープの下にテントをセットすれば寒さ対策にもなり、全天候に対処できる防御体制が整う。</p>
<p>予備のロープを使って雨の逃げ道を作る</p>		<p>雨 風 雪</p> <p>タープに雨が溜まるような時は、あいているグロメットに予備のロープを通し溝を作るとよい。雨はこの溝を通してスムーズに流れ落ちる。落ちてくる雨水で身体や荷物を濡らさないよう、いちばん出入りが少なく荷物から遠い箇所にロープを張るのがポイントだ。</p>
<p>両サイドを閉じて風と雨、雪の侵入を防ぐ</p>		<p>雨 風 雪</p> <p>強い風や土砂降り、降雪時にはサブポールを使わずに、2本のメインポールだけで三角テント型に張る。遮蔽度は高くなるが、内部の空間は想像する以上に広く快適なリビングスペースを確保できる。両端は角だけでなく、中央のグロメットも固定すれば一層効果的。</p>
<p>ブラインドを作りプライバシーを確保する</p>		<p>雨 風 雪</p> <p>プライバシーを確保したい時や、強風時には、タープのサイドを下げてグロメットに直接ベグを差して地面に固定すれば、ブラインドの役目を果たしてくれる。</p>

■ヘキサウイング

<p>天候が怪しくなったら身を低くして備える</p>		<p>雨 風 雪</p> <p>どうも雲行きが怪しくなってきたな、と判断した時は、タープを低く設営する。通常使う 240 ~ 280 cm のポールに代えて、210 cm、場合によっては、180 cm の短いものを使用する。防風・防雨効果が向上し、さほど強くない短時間の天候不順なら、これだけでも十分対処できる。</p>
<p>サブポールを使えば開放感も確保できる</p>		<p>雨 風 雪</p> <p>レクタングラータープほどの開放感を得られないヘキサウイングだが、片側の長翼、短翼のグロメットに 180 cm 前後のサブポールを立てて設営すれば、全面開放型になり広い視覚を確保できる。</p>

ポールのセレクションポイント

ポールの全長は、稜線部のクリアランス、人の出入り、雨や風に対する強度を考えて選ぶ。

ヘキサタイプは稜線部のクリアランス。レクタングラーは雨水の流れを生む高さを基準に選ぶといい。



【ヘキサ&ウイングタイプ】

稜線アール部のクリアランスを 200cm に設定すると、240cm 2本の組み合わせ以下は無理。

280 cm と 240 cm の組み合わせは開放と遮蔽の2つのメリットを生みスノーピークヘキサには最適な選択択。

【レクタングラータイプ】

レクタングラーは、雨水の流れと全方向からの人の出入りを意識して、タープ面の傾斜を稼ぐセッティングが望ましい。メイン 280cm とサブ 170~180cm のセッティングは雨水の流れがスムーズ。